

～商店街ハック (Hello And Collaboration Kyoto) 事業～ 第2回「商店街ナイト」開催結果

- 1 日時：平成28年3月7日（月） 18時30分～20時30分
- 2 場所：京都府庁福利厚生センター第5会議室（京都市上京区）
- 3 趣旨：

京都の商店街を中心に地域やまちで面白いことをしていたり、そんな活動をはじめたいと考えている若者等を集めて、活動や事例の共有・情報交換と、ワークショップを通じた新しい展開を考える機会として開催しています。

今回は、「情報発信」をテーマに、商店街における情報発信の事例の共有や、これからの発信について、実践者によるキートークを交えて考えました。

- 4 参加者：商店街活性化に関心のある団体・若者など約20名（SNS等で募集）



5 概要

■大見謝将伍氏によるキートーク

(1) 商店街での活動について

- ◆ 沖縄的那覇市の国際通り近くの商店街で、「水上家」という場を運営。
自分で、「水上学舎（商店街で、学ぶ、共有する、つながる）」「メガネと、つどう（メガネをかけた人が、好きなものをテーマに、ゆるゆるとおしゃべりする会）」「Bar OTTO（お酒の場をつながる、ご当地カクテルを研究する）」等の事業を開催。
他の人達も、この「水上家」という場を使って、「まちライブラリー」「映画部」「We部」等の事業を実施してくれている。
- ◆ 自分の好きな「ルートピア」のマップ制作や、水上新聞をつくって、商店街のいろいろな店にも置いてもらっている。
- ◆ 国際通りは、観光客は来るが、地元の人には来ない。地元の人にも楽しめる場所をつくりたいと思った。
- ◆ 水上家は、①家でもない、職場でもない、第3の場所、②人と人、人と情報が交差する場所、③やってみたい、が試せる場所、を目指している。
「コミュニティ」であり、「情報センター」であり、「登竜門」でもある。

(2) 「焦点街」について

- ◆ Why 焦点街？
 - ① 「マチノコト」（「つなぐ、つくる、つたえる」をテーマにコミュニティデザインにまつわることを紹介するウェブメディア）に関わった

- ② 「縁側なび」（日本で唯一の縁側情報を持つメディア）を知った。（「縁側なび」はニッ
チを攻めている → そうすると、人が知りたいと思う）
- ③ 「水上家」を始めた（情報発信をする意味ができた）

◆ How 焦点街？

- ① 商店街の動きを見える化できるようにする。
- ② ケーススタディができるようにする。
- ③ まちに行く → まちで動く になるようにする。

◆ What 焦点街？

- ① ヒストリー（歴史）
- ② ストーリー（人） ← 特に、人に焦点を当てたい
- ③ アクティビティ（動き）

◆ メディアの3つの問い

- ① 誰に来て欲しいのか？
A： 知る（関心人口）→行く（交流人口）→関わる（関係人口）へ
- ② 誰が書くのか？
A： プレイヤーでもあり、ライターでもあれ
- ③ 顔は見えるのか？
A： 会話を生むため、コーディネーター的ライターが必要。

◆ 商店街は課題のるつぼ

- ・ 小売業 → 働き方、移住
 - ・ 人の集まる場 → コミュニティ
 - ・ 事業継承問題 → 家族
- 課題があるということは可能性がある。

<大見謝将伍（おおみじゃしょうご）氏プロフィール>

1988年生まれ。沖縄-伊平屋島育ち。バーテンダー、ITベンチャー営業職を経てフリーランスに転身。と同時に東京を離れて、京都や小豆島などに短期滞在し、地域に根ざしたくらしとメディア（コミュニティ）づくりを追う。2014年8月に沖縄にUターン。ライティングを主にする傍らで、Webメディア媒介での「つくる」「そだてる」「つたえる」を軸にした、地域密着型のプランニングや場づくりに携わる。

「マチノコト」ライター、「水上家」管理人、「焦点街」編集長。

■キートークを受けた参加者からの感想等（主なもの）

- 場所が必要な発信と知らない発信とがあるが、伝わりやすいのは場所のある発信。顔を合わせた方が伝わりやすい。ただ、場に行けない人のためにはWeb等も必要。
- お洒落な60代の人が行き場がない。そういう場を商店街につくれないか。
- 商店街と発信力をつなぐ部分が気になる。伝えたい人とそれを面白がる人を集めることが必要。
- 商店街は単にモノを売る場ではなく、ショッピングセンターやネット通販にはないものを追求することが必要。そうでないと商店街の価値がなくなる。
- エッセンスというキーワードが気になった。これまで関わった商店街では、他所のまねで、本質が引き出せていなかった気がする。
- 「大人の遊び場」はよい言葉。自分の居場所づくりが、みんなの居場所づくりにつながる。場所だけあっても駄目で、そこに面白がって関わる人も必要。

- 自分はイベントの企画をする方なので、情報発信に強い人と連携していきたい。
- 商店街に黒板を置いたら、それが交流のきっかけになった。アナログが好きなので、アナログで、若者と商店街とをつなぎたい。
- イベントを何度かやったが、単発で終わらせては駄目。200人のイベント1回よりも、5人でよいので続くものの方がよい。

6 主催：京都府
企画・運営：株式会社ツナグム
協力：株式会社基地計画